

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.39

配信日：2022年3月8日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

日本歯科新聞 記事紹介

「第5回認定再生医療等委員会教育研修会」に参加して～委員会の役割の重要性を痛感～ 東京形成歯科研究会再生医療等委員会 押田浩文

記事をご紹介させていただきます。

記事の内容につきましては、別紙※(Emailの場合:別添)(Faxの場合:本状含め2枚目)の通りでございます。

※ 別紙 出展元：日本歯科新聞 2022年3月1日(火曜日) 発行

事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただきます。従来は、歯科・医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員・関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただくと幸いです。ご検討の程、何卒宜しく願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合もございます。予めご了承願います。

〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F

一般社団法人東京形成歯科研究会 事務局

Email: okudera@carrot.ocn.ne.jp

TEL:03-3919-5111/FAX:03-3919-5114

平成26年(2014年)11月に「再生医療等安全性確保法」が施行され、第1〜3種(リスク分類別の再生医療等)を実施するには所管の地方厚生局への届出が義務付けられた。施行から7年が経過し、第3種の歯科領域におけるPRP(PRF・CGF・PRGF含む)療法の届出数の占める割合は、第1種・第2種を含めた全体でも相当に高い数値となっている。

歯科領域でのPRP療法は肘などの関節炎(関節周囲炎)への治療に利用されており、米国や日本での周知は進んでいるようだが、日本では、がん免疫細胞療法と併用されており、また、難治性皮膚潰瘍の治療におけるPRP療法が保険収載されることとなった。

歯科領域では、インプラントや歯周病等治療にPRP療法が利用されているが、その数の多さは歯科のそれとは比較にならない。

そのような状況下における2月6日、厚生労働省委託事業である「第5回認定再生医療等委員会教

育研修会」(主催・認定再生医療等委員会)における審査の質向上事業)が、(Webinar)開催され、認定再生医療等委員会委員の立場で参加した。

同研修会には歯科領域におけるPRP療法に関わる代表的立場の東京形成歯科研究会再生医療等委

員会委員長で、歯科医師である奥寺元氏が、パネルディスカッション「定期報告で何をどのように評価するのか?」のパネリストとして参加している。

意見交換がなされた。その課題解決においてエビデンスが求められることは改めて言及するまでもない。

治療への応用(保険収載)、そして歯科領域で実施されているPRP療法の数からも「倫理観」を加えた議論に発展するのではないかと考えている。

委員会の役割の重要性を痛感

性、さらには科学的妥当性が担保されているのか等について、認定再生医療等委員会はそのような手段と方法で各審査を行うのか、その評価手段や評価方法をどのように確立していくかは、継続した重要課題の一つである。

同研修会ではそのための活発な

授・川瀬知之先生と基礎研究(共同研究)に長年取り組み、実績として多数の論文を残している。この活動は今後も継続される予定で、現在も進行中である。

今後、認定再生医療等委員会に期待される方向性については、がん免疫細胞療法、難治性皮膚潰瘍

つまり、「エビデンス」プラス「倫理観」、そして、特に重篤な疾病に應用されるPRP療法においてはエビデンスを確立するまで、倫理観を兼ね備えた姿勢の継続が今後ますます重要になってくるものと思われる。

そうした観点から今回の研修会の受講は非常に有意義であった。そして、認定再生医療等委員会の役割は、今後ますます社会的重要性が増すのは必定で、認定再生医療等委員会の構成メンバーとして、さらに身が引き締まる思いがした。